

第2回九州・沖縄 Active SMBG Seminar に 参加して

2006年7月9日、
長崎ブリックホール(長崎市)にて

松尾 直美

九州・沖縄 Active SMBG Seminar は、血糖自己測定(SMBG)を中心とした知識・情報の提供や交換を行い、糖尿病療養指導のレベル向上を図ることを目的に、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催のもと毎年1回開催されているセミナーです。昨年、第1回のセミナーが鹿児島で開かれ、今年度は長崎市の会場に九州・沖縄各地からおおよそ270名の参加者が集い開催されました。

セミナーの内容は一般演題と特別講演およびケーススタディの3部構成で、一般演題では臨床検査技師や管理栄養士、薬剤師の立場からみたSMBGについて、それぞれの職種から報告がありました。簡易血糖測定器で測定値に誤差の生じるメカニズムや、膵臓に負担をかけない食べ方の実験結果、栄養指導へのSMBG活用の実際など、すべてが実践的で興味深い内容でした。

特別講演では、ご自身も1型糖尿病でいらっしゃる黒田暁生先生(City of Hope National Medical Center)から、「脳内膵移植」のお話がありました。「脳内に膵臓を移植したかのようにインスリンの生理的制御を頭のなかで再現する(think like a pancreas)」をテーマに、黒田先生ご自身のエピソードを交えながら、楽しいスライドと奇抜な効果音で、あっという間の60分間でした。今回、この特別講演には長崎県小児糖尿病ことこのうみの会をはじめとする、1型糖尿病の患者さんやご家族も参加され、「希望が出てきた」「自分のやり方に自信が持てた」といった感想が聞かれました。



特別講演のあとには、4症例のSMBGの記録をもとに患者さんの問題点や療養指導法についてグループディスカッションが行われました。1型糖尿病を発症した小児への支援のあり方(大分)や、HbA_{1c}値と乖離を認めるSMBGのデータの分析(沖縄・長崎)、不安定な血糖コントロールの分析と支援(長崎)など、バリエーションに富んだ症例が提示されました。このケーススタディには、黒田先生や1型糖尿病の患者さんご家族も参加されました。医療スタッフだけで行う通常の症例検討会と異なり、患者さん側から見た意見も多数出され、いつもと違う緊張感がありました。患者さんやご家族に意見を投げいただくことで、ハッとしたりギクリとしたり、医療者の死角に気付くことも多くあり、知識以上のたくさんのことを学んだ有意義なセミナーでした。■

まつお なおみ
長崎大学医学部・歯学部附属病院
生活習慣病予防診療部
糖尿病看護認定看護師
(〒852-8501 長崎市坂本1丁目7-1)